

2020年7月30日

新しい農村政策の在り方に関する検討会

農村社会と人材育成

: 地域農政未来塾を中心に

生源寺眞一

福島大学食農学類

地域農政未来塾の誕生

地域の具体的課題に取り組む人材の養成

- 全国町村会主宰の地域農政未来塾は短期集中型の講義・演習による人材養成プログラム。2016年度にスタート。5期生を迎える予定だった今年度は新型コロナウイルス問題で中止に。
- 地域の実情を把握し、国の政策についての十分な理解とともに、農政の理論に通じた有能な農政担当職員の養成が喫緊の課題となっている。このため、自ら地域の課題に気づき、学び、考え、提案し、そして実行できる町村の農政担当職員を養成するため地域農政未来塾を設置する。

「地域農政未来塾設置要綱」2016年4月より

少人数で短期集中型のカリキュラム

- 塾生は20人程度。20代から40代前半までの若手・中堅の町村職員や町村関連第三セクター職員で構成。月1回、週の後半の木曜・金曜に永田町の全国町村会館に参集する方式を7回反復。講義を受講するとともに、主任講師4名のもとでのゼミに参加。最終回は執筆した論文による研究発表会。
- このほかにゼミごとに農村の現場を訪問する現地調査を実施。また、8月には過年度の修了生を対象にフォローアップ研修が行われ、現役生も参加することで年度を越えた交流の機会に。

各界で活躍する講師陣を迎えて

- 4名の主任講師をはじめ、各界の第一線で活躍する講師に授業の担当を依頼（別紙参照）。後半には、塾生の関心やニーズを考慮して実施するオーダーメイド講義も配置。
- 町村役場の農政の担当職員は少数。したがって、塾は月に1回の短期集中方式で運営し、首長や役場の理解と協力のもとで、塾生を送り出していただくことに。それでも地震や豪雨からの復旧の業務で、受講の継続を断念したケースも。

塾生に伝えたいこと

個性的な立地条件と政策課題

- 中山間地域を含む点は、多くの町村の共通項。けれども、自然環境と歴史・文化は個性的であり、立地条件によって農業や関連産業の中身も多彩。塾生同士の交流や現地調査は、自分自身の町村の特色を再認識する機会に。
- 農政の課題にも町村の個性が反映。定型的な解があるわけではなく、立地条件や歴史によって培われた強みを活かす道を独自に探究することが大切。解答よりも解法。

農村空間の構造：国際的な視点も大切

- 農耕景観や伝統文化の継承など、農業の多面的機能が日本やヨーロッパで高い関心を呼んだ背景には、地域に多くの非農家住民を擁し、地域外から多くの訪問者を受け入れる農村空間の構造。多面的機能もユーザーがあればこそ。
- 多層的な空間利用のもとで、農業政策は居住環境をめぐる農村政策と重なり、教育や観光などの領域の政策とも深く関係することに。

【参考】農村空間には日欧に共通点

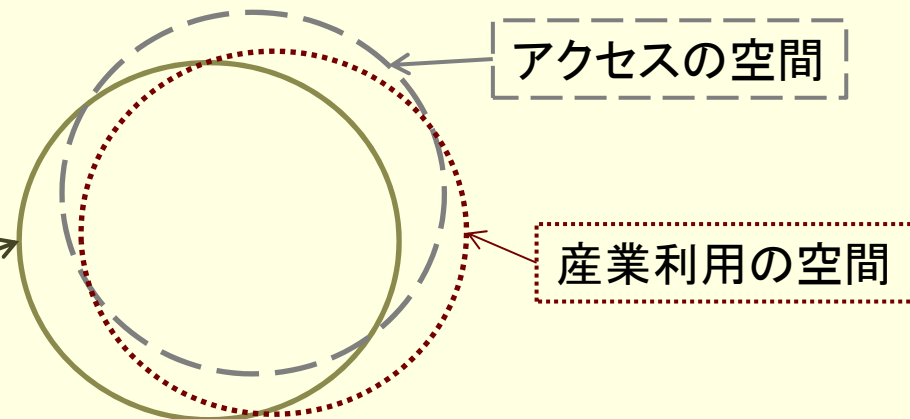
農村の存立構造という点で、日本とヨーロッパの国々には共通項。自然の産業的利用の空間、アクセス可能で域外の人々がエンジョイできる自然空間、さらには非農家住民も含んだコミュニティを支える居住環境としての空間が重なり合う構造。

農村空間の構造：
日本やヨーロッパ

コミュニティの空間

アクセスの空間

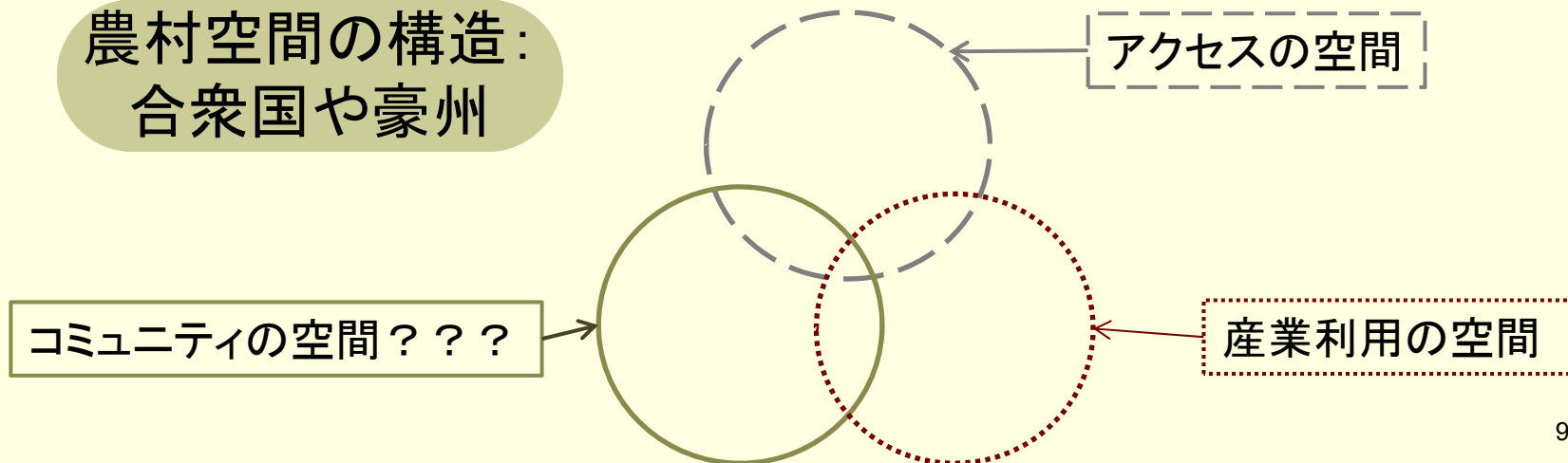
産業利用の空間



【参考】合衆国や豪州では？

合衆国や豪州のような開発の歴史の浅い国では、自然資源がなお豊富なこともあって、自然の産業的利用の空間である農場と、国民のアクセスの対象としての自然空間（典型的には国立公園）は概して分離されて存在。日常的な交流の場も、農場からは距離のある小さな町にあるのが普通。

農村空間の構造：
合衆国や豪州



二兎を追って二兎を得る

- 農業の多面的機能は農業生産に伴う副産物というのが通常理解。けれども、自然環境の保全、良好な景観の形成、文化の伝承といった機能には、農業の生産性向上とは相反する面も存在。
- 食料の効率的な生産と良好な資源・環境の形成の二兎を追うことが大切。二兎を高いレベルでバランスさせることも、農業・農村政策の基本課題。具体的なビジョンとその実現に向けた道筋は、町村の立地条件や歴史・文化によって異なることに。

決まりごとが通用しない

- 農村の共同行動の特徴には、メンバーが同質的で閉鎖型だった点も。メンバーが多様化し、域外で育った若者の就農が当たり前になる中で、互いに納得して参加する共同行動へ。歴史を振り返ると、決まりごとが通用しなくなったとき、自分たち自身で新たな決まりごとを生み出してきた農村コミュニティ。
- 多くは江戸時代までに形成された日本の集落。農作業の機械化が進み、輸送手段・情報通信手段が格段に発達した今日、従来の集落を共同行動の基礎単位とすること自体が再考の対象に。

長期の判断も重要に

- ネットワーク型の日本の農地については、ドミノ的な耕作放棄の拡大防止がポイント。地域を熟知した人々の判断による防衛線の設定が有効な場合も。全集落を未来永劫維持し続けることは極めて困難。
- 数十年の将来をにらんだ長期の時間的視野のもとで、住民の福祉に最大限の配慮を注ぎながら、漸次計画的に撤退をはかるという発想も必要である。この場合に大切なことは、早晚使われなくなる可能性の高いストックの新設や更新への投資的な資源投入ではなく、必要性が続くかぎりフローとしての住民サービスの水準を堅持する姿勢である。 『農業再建』2008年より

町村の強みを発揮する

町村の強みを生かすために

- 農村地域、とくに中山間地域を支える政策は多岐にわたっており、農林水産省所管の政策はその一部を担っているとの認識も大切。関係性の強い府省間の連携のあり方は、今後とも重要な課題。
- 町村役場の場合、他の分野を担当したのちに農政を担うなど、さまざまな領域を経験するのが普通。異なる分野の職員と日常的に隣り合わせである点も職場環境の特徴。こうした分野横断的な経験と交流を活かす工夫も、農村政策には有益。

【参考】教える側が教えられる

- 教える側が教えられることが少なくない。これも塾の特徴である。今回は私自身が改めて気づかされたことから、ひとつだけ申し上げておきたい。それは町村の役場の総合力であり、分野横断的な潜在力にほかならない。仕事の縦割りが徹底し、固定的な専門家集団からなる国の省庁と対比してみると分かりやすい。町村役場の職員には、財政を担当したのちに農政を担うケースなど、さまざまな領域を経験するケースが少なくない。塾生にも農政の未経験者が含まれている。そもそも異なる分野の職員とほとんど隣り合わせであるところに、役場の持ち味があると言ってよい。

『町村週報』2019年3月より

孤立した政策に終わらせないために

- 中山間地域には農業が存在することで地域が維持される面とともに、地域社会が維持されていることで農業が継続している面も。中山間地域等直接支払制度も、これのみであるならば、孤立した政策として、いずれは役割を終えることに。
- 中山間地域について、農業生産のハンディを補填する直接支払制度に留まるのではなく、地域の所得稼得機会や居住条件のあり方に政策のウイングを広げた点は、2020年3月の食料・農業・農村基本計画の特徴。

研究論文は近未来への第一歩

- 塾生は主任講師の綿密な指導のもとで研究論文を執筆。テーマは実に多彩だが、自分自身の地域の課題に取り組む姿勢という点では共通。
- ポジティブな姿勢で課題に向き合う点では共通項が感じられました。行政の現場では、制度的な拘束や予算の縛り、あるいは過去の事例の不在といった観点から、しばしば否定的な思考に流れがちな面もあります。そこを広い視野と長い時間軸から構想することで、前向きなプランを練り上げているわけです。論文を精読しながら、地域農政未来塾の果たすべき役割を再認識することになった次第です。

「塾長の言葉」『論文集』2020年3月より

【参考】最優秀の研究論文

- 1月には1日半をかけて論文の発表会。塾長は事前にすべての論文を精読し、最優秀論文賞と優秀論文賞を選定。これまでの最優秀論文は次の通り。

1期生 近平高宜(愛媛県愛南町)

柑橘農業の地域発展戦略:愛南町の河内晩柑を考える

2期生 松田誉至(岩手県住田町)

「住田町農業」の過去・現在・未来

3期生 今里奎介(長崎県波佐見町)

「陶・農」兼業によるライフスタイルの提案

4期生 郡司裕美子(茨城県茨城町)

がんばっぺ茨城まち！:台風による農産物ロスをポジティブ変換

2019年度 地域農政未来塾 講座開講日程

2019年5月10日版

開講式	2019.5.15(水)	14:30～15:00	15:00～15:50	16:00～16:50	17:00～17:30	17:30～	備考・その他	種類	コマ数
		オリエンテーション	自己紹介	塾長特別講義	開講式	懇談会		特別講義	1
時間割	【1限】9:00～10:30	【2限】10:50～12:20	【3限】13:30～15:00	【4限】15:20～16:50				種類	コマ数
第1回	5.16(木)	10:30～11:30 (5/16) 講義受講・ゼミ選択オリエンテーション	13:30～14:30 (5/16) 【主任講師紹介講義】 荘林幹太郎氏	14:50～15:50 (5/16) 【主任講師紹介講義】 榊田みどり氏	16:10～17:30 (5/16) 体験的農政論 皆川芳嗣氏			紹介講義	4
	5.17(金)	9:30～10:30(5/17) 【主任講師紹介講義】 小田切徳美氏	10:50～11:50 (5/17) 【主任講師紹介講義】 中嶋康博氏	平成30年間の日本経済を振り返る 柴田 寛氏		地域経済論 藤山 浩氏		講義	3
第2回	6.20(木)	フードシステムと農政 中嶋康博氏	森林・林業の現状と課題について 牧元幸司氏	自治体職員論 大森 彌氏	観光振興の現状と観光地域づくり 梅川智也氏			講義	7
	6.21(金)	農業センサスによる地域分析の視点と手法 橋詰 登氏	日本の農業財政と政策対応について 小嶋大造氏	農政にとって地域とは何か？ 小田切徳美氏	ゼミ【主任講師】			ゼミ	1
第3回	7.18(木)	消費者と農政 阿南 久氏	食のグローバル化と地域自給戦略の動き 榊田みどり氏	地元学再考 結城登美雄氏	農村社会計画論 福与徳文氏		17:00 オーダーメイド講義 オリエンテーション	講義	7
	7.19(金)	政策評価論 生源寺眞一氏	農山村の本質的価値と移住・交流による地域活性化 宮口侗迪氏	環境と農政 荘林幹太郎氏	ゼミ【主任講師】			ゼミ	1
研修	8.30(金)	修了生・4期生フォローアップ研修15:30～18:00 (予定) 18:00～懇談会					塾長・運営委員長・主任講師 出席予定		
公開講座	8.31(土)	10:00～16:00 (予定) オープンセミナー							
第4回	9.26(木)	農業新技術の開発状況について 寺島一男氏	【実践】伝わる政策文書の書き方 赤羽博之氏					講義	3
	9.27(金)	これからの農業継承について 和泉真理氏	食料と農業の今後を考える 三石誠司氏	ゼミ【主任講師】				実践 ゼミ	3 2
第5回	11.7(木)	農地制度と自治体農政 安藤光義氏	オーダーメイド講義予定	【実践】ファシリテーション講座 石塚 雅明氏				講義	4
	11.8(金)	農政の決定過程と国際貿易の情勢 石井真人氏	オーダーメイド講義予定	ゼミ【主任講師】				実践 ゼミ	2 2
第6回	12.12(木)	まちづくり再論 岡崎昌之氏	農業経営最前線 森 剛一氏	【実践】プレゼンテーション講座 森 吉弘氏				講義	4
	12.13(金)	6次産業と地域 松嶋匡史氏	オーダーメイド講義予定	ゼミ【主任講師】				実践 ゼミ	2 2
第7回 (2020)	1.16(木)	—	—	—	14:00～16:15 研究発表①榊田ゼミ		塾長・運営委員長・ 主任講師出席	講義	29
	1.17(金)	9:00～11:05 荘林ゼミ②	12:05～14:10 小田切ゼミ③	14:25～16:30 中嶋ゼミ④	17:00～ 修了式 17:30～ 懇談会			実践計 ゼミ計	7 8